

内田茂男先生のご定年退職によせて

政策情報学部教授 瀧上 信光

政策情報学部の内田茂男先生が昨年3月末日に定年退職された。内田茂男先生は、平成12年（2000年）4月に21世紀という新しい時代を念頭に新設された政策情報学部の創設時の教員として就任されて以来、学部の中核として活動をされてきたのはもとより、千葉商科大学全体のため、さらには社会のさまざまな分野において多くのご功績をあげてこられた。このような素晴らしい先生に対する献辞をここに書かせていただくことは真に光栄なことである。

内田茂男先生は、昭和40年（1965年）3月に慶應義塾大学経済学部を卒業され、日本経済新聞社に入社し、入社後は編集局証券部、日本経済研究センター、東京本社証券部長、論説委員などを歴任され、この間、記者活動や政府の審議会委員等での活動を通じ日本経済を身をもって体験されてこられた。

その貴重なご経験を基に著書「日本証券史3」単著（日本経済新聞）、「日本経済史下」共著（日本経済新聞社）をはじめ多くの著書を著されている。これらの著書は、高度経済成長の終焉、二度にわたる石油ショック、アメリカやEUなどとわが国との経済摩擦の激化、バブル経済、平成不況など、その時々を生じた課題と、それに対して採られた様々な政策など、今日に至る日本経済の流れを臨場感を持って的確に分かりやすく、まさに「日本経済の生き証人」の証言とも評すべき内容となっている。

私もこの時代、行政管理庁や総務庁で行政改革などの仕事を担当してきており、行政の簡素合理化、歳出削減、民営化、規制緩和、行政の透明性向上等の改革課題に取り組んできたが、先生のこれらの著書から、行政改革はまさに日本経済の変化と密接な関連性をもって実施されてきたということを改めて認識することができた。

また、平成3年（1991年）9月の第三次行政改革審議会答申による証券取引等監視委員会の設置に関連し、委員会の組織形態のあり方について、先生と国の組織管理を担当していた私とが、お互いの立場を色々な形で主張し合っていたことも、大

学の教員になってお互いに初めて知り、同時代に生きた先輩として親近感を強く覚えたものである。

内田茂男先生は、大学では、日本経済論、新エネルギー論、金融・証券、対外援助などの幅広いご専門分野を活かし、学部学生および大学院生を対象として授業を行っておられたが、授業が分かりやすく、様々な具体的な事例を踏まえた内容で役に立つことなどから学生の信頼も厚く、高い評価を得ている。先生の熱心な教育への取組みにより、先生のゼミナール（テーマ研究会）から優秀な人材を多く輩出し、国内一流企業に就職した者や、中国人留学生の中には、現在中国で大企業の経営者として目覚ましい活躍をしている者もいる。先生は、これらの卒業生から慕われ、卒業後も様々な形で交流を続けているなど、教育者として全人格的な教育を実践してきたといえよう。

さらに、平成22年（2010年）10月の大学のユニバーシティ・アワーで全学部の学生を対象に「体験的日本経済論—正義とシステムが問われた20年—」の講演をされるなど、全学的な講演会、シンポジウム、公開講座などにも積極的に参加し、大学の内外の者に経済をめぐる問題を分かりやすく解説し、理解を深めることに努められてきている。

このような内田茂男先生の講義に対する高い評価は、その著書「ゼミナール日本経済入門」共著（日本経済新聞）が、広く全国の大学生や社会人に対する経済の基本テキストとして、昭和60年（1985年）発売以来現在まで24年で70万部以上のベストセラーになっていることから理解できる。なお、同著書は、昭和60年に日経・経済図書文化賞を受賞している。

リーマンショックや東日本大震災、膨大な財政赤字、社会保障と税の一体改革、世界同時不況などが日本経済に与える影響などについて国民の関心も高く、今まさに内田茂男先生の出番であり、今後とも大学での講義・講演やわが国の経済アドバイザーとしてのご活躍が期待される場所である。

内田茂男先生の本学でのご活躍で欠かすことのできないのは、学校行政に対するご貢献である。平成18年度（2006年度）から4年間にわたり島田晴雄学長の学長補佐として学長を支え、また、学部の入試関連委員長や大学の入試センター長を務められ、入学者確保にも大きな実績をあげてこられた。さらに、学校法人千葉学園の

評議員などを務められ、学園の経営にも大きなご貢献をされるとともに、退職後はその手腕を高く評価され、学園の常務理事（財務担当）として引き続き学園のためのご活躍されている。

内田先生は学外でも、その識見とご経歴から、現在まで市川市教育委員会委員、財団法人日本高等教育評価機構評価員、NPO 法人日本ファイナンシャル・プランナー（FP）協会理事など、多くの役職への就任の依頼を受け、社会貢献を果たされてきている。

以上のような、内田茂男先生のこれまでのご活躍とご貢献に敬意を表し感謝を申し上げますとともに、先生の今後一層のご活躍とご健勝を祈念申し上げ、私の献辞といたしたい。